

2023 FISU World University Games

Report 7(8/4)

8月4日(金)

いよいよ大会が始まりました。この日は全クルーレースがある過密スケジュールの一日となりました。クルーごとに打ち合わせた時間に選手村を出発し、レースへの準備を行い予選レースに挑みました。M2-とLW1xは敗者復活レースもあるタフなスケジュールでしたが、チーム一丸となりベストを尽くす滑り出しになりました。



艇の最終チェックを行うコーチ陣。



朝の練習に向かうLW2xクルー。

M2- 予選

定刻通りのスタート。スタートから積極的に攻め500mの通過は1位イタリアから4位ハンガリーまでが1.81秒差のほぼ横並びでレースが進む。日本は1位イタリアと0.37秒差の2位と好位置をキープ。第2クォーターに入るとチェコが伸びてきてトップに立つ。日本はやや減速したイタリアをかわし2位をキープしながらレースは後半に突入する。ただ第3クォーターに入ると日本に多少蛇行が見られはじめ減速。その間にイタリアにかわされ3位に後退。第4クォーターも追いかけるが差は開き3位でフィニッシュ。敗者復活に回る事になった。



2位イタリア(奥)を追い上げるM2-クルー。写真左から、S是谷選手、B柘植選手(共にトヨタ紡織)

W1x 予選

スタートはまずまずの出だし。うまくトップスピードに乗せていくが、他国もグイグイ飛ばしトップの中国から6.24秒さんの5位で500mを通過。何とか予選通過ラインの3位以内を目指し粘り強く力漕を続け、第3クォーターでドイツをかわす。もう一つポジションを上げるべく追撃を続けるが、惜しくも及ばず4位で明日の敗者復活にまわることになった。

写真(右): 先行するクルーを追撃するW1x飯島選手(明治安田生命)



LW1x 予選

スタートからポーランドが飛び出しドイツが追いかける展開。日本とイタリアは並びながら追いかける。1000mこそ4位の通過ではあったが、第3クォーターでドイツを、そして第4クォーターでイタリアをかわし2位までポジションを上げゴール。同日行われる敗者復活に回ったが手ごたえのある初戦となった。

ドイツ(奥)をかわしさらに追いあげるLW1x上館選手(仙台大学)



LM2x 予選

スタートからトップスピードに乗せていくが中国とオランダが先行し500mを3位で通過。そこから中国が落ちはじめ1000mでは2位に浮上。第3クォーターではさらにペースを上げオランダをかわしトップに立ち、追いつがるオランダをかわし堂々1位でファイナルA進出を決めた。

追いつがるオランダを引き離すLM2xクルー(奥)。写真左からS青木選手(早稲田大学)、B一瀬選手(NTT東日本)





LW2x 予選

スタートで多少ついてこられるが、スピードに乗り500mを1位で通過すると、そのままグイグイ他国を引き離し1000mでは2位南アフリカに3.81秒差をつける。第3クォーターに入っても日本の艇速は衰えることなく、危なげなく1位で最終日のファイナルAに駒を進めた。

2位以下を大きく引き離しゴールに突き進むLW2x。写真左からS米澤選手(明治安田生命)、B角谷選手(アイリスオーヤマ)

M2-敗者復活

序盤からチェコがレースを引っ張り、日本、ハンガリー、トルコが追いかける形でレースが進む。第2クォーターに入り日本が伸びてきて2位に浮上。3位トルコには3秒近い差をつける。しかしここから、トルコが驚異的な追い上げを見せ日本との差を詰め始め1500mでは1秒以内の差になりデッドヒートとなる。ラストクォーター、日本とトルコが競り合いながらチェコとの差を詰めなだれ込むようにゴール。結果2位トルコとは0.43秒差の3位でBファイナルに進むことになった。



トルコとデッドヒートを繰り広げるM2-クルー。



LW1x敗者復活

予選で後半かわしたドイツがレースを引っ張る展開で、日本、イタリア、チェコが続く。4位以内でファイナルAという状況だが、ドイツが抜けつつも、後続の日本、イタリア、チェコは強度を緩めずデッドヒートを繰り広げる。

最終的には1位ドイツ、2位チェコ、3位日本、4位イタリア、5位中国となり、内容の濃いレースという経験と共に見事ファイナルAの切符を手に入れた。

タフなスケジュールの中、ファイナルA進出を決め上田サポートコーチと共に喜ぶ上館選手(仙台大学)

明日は、W1xの敗者復活と、その次のレースのみになりますが、チーム一丸となって戦ってまいりますので、引き続きご声援よろしくお願い申し上げます。